

01 企業・NPO・大学等パートナーシップミーティング2022に参画しました
▶2022年1月18日

交流した自治体、企業、個人と協力して活動を始めています。



02 「おもしろ理科教室」を行いました
▶2022年12月～2023年3月

金井教授、高村教授、清水教授、石綿教授、齋藤教授が玉川小、南毛利小、厚木第二小、依知南小、清水小、戸室小、緑ヶ丘小、妻田小、北小、三田小、鳶尾小、飯山小で行いました。



03 「ものづくり夢体験」燃料電池を走らせました
▶2022年1月18日

愛川町の小学生が神奈川工科大学で「ものづくり夢体験」燃料電池を走らせました。



04 「富士市連携ものづくり交流フェア」で体験展示ブースを出展しました

KAIT EDTCの学生が体験展示ブースを出展しました。



05 愛川町 町民大学を開講しました
▶2023年2月～3月



06 社会人のための情報技術セミナーを開催しました
▶2023年3月



07 令和4年度私立大学等 改革支援事業が採択されました
▶2023年3月

今回は、全タイプが採択されました。全タイプが採択されたのは神奈川工科大学を含めて、全国で8校のみです。

08 シリーズ「サブカル公開講座」紀伊國屋書店にて開催中です



09 福祉用具専門相談員資格取得講座の開催しました
▶2023年3月1日～10日(7日間)

介護保険法に基づく資格取得のための講習会を神奈川工科大学にて実施しました。看護学科、臨床工学科、ロボット・メカトロニクス学科の学生16名の参加者全員が資格取得できました。



10 SDGsの唱える「誰一人取り残さない」を念頭に防災を検討しました
▶2023年3月9日

アジア防災セミナー(zoom)を開催、16か国60人の参加(UNICEF,JICA等国際機関を含む)を得てSDGsの唱える「誰一人取り残さない」を念頭に防災を検討しました。



11 防災のための公開講座を開催しました
▶2023年3月23日

災害時の停電は生死にかかわる問題です。行政、医療機関、医療機器メーカーなどと課題解決に向けて、ご本人、ご家族が基礎的な知識も持ち、ともに取り組むことが大切です。そこで、神奈川工科大学の特性を活かした公開講座を開催しました。



12 令和5年度厚木市フレイル予防教室 委託業務を開始しました

健康的に歳を重ねていくための取組を健康福祉支援開発センターが令和3年度から、厚木市より受託しています。

13 教育訓練給付の講座指定を受けました
▶2023年4月1日

神奈川工科大学の大学院が、現在または将来に渡って要求される能力を開発するための人材育成のための指定を受けました。

編集後記

今回は神奈川工科大学の学生さんとの座談会の様子をお届けしました。学生たちの素朴で優しい気持ちとパワーが届けられますように!! 幸世

News Letter

ニュースレター

Vol.9 2023年6月

あいさつ

地域連携・貢献センター長 小川 喜道

2023年度もすでに3か月を過ぎておりますが、コロナ禍の過去3年間とは違い、多くの学生で活気あるキャンパスとなっております。

緑もいっそう濃く感じます。当地域連携・貢献センターも丸3年を経て、4年目に入りました。今年は大創設60周年という節目にもあたりますので、これまでの実績を土台として一層飛躍の年にしていきたいと思っております。

KAIT 地域連携・貢献事業の紹介

スマホを持って“あつぎ”を歩こう 楽しいが一番 学生と高齢者

年齢を重ねても、心身の健康を保つための取り組みがフレイル予防です。神奈川工科大学では以前から、高齢化に着目した課題解決のための研究を続けています。厚木市からは、令和3年度よりフレイル予防教室を受託しています。そして、神奈川工科大学の特徴を活かし、昨年度から取り組んでいる活動が『スマホを持ってあつぎを歩こう』です。今年度の第1回活動後に、この活動を最初から支えてくれている学生4名を招き、お話を伺いました。(聞き手:小川センター長)



小川 今日はお疲れさまでした。スマホを持ってあつぎを歩こうを最初から支えてくれている学生の皆さんをニュースレターで紹介したいので活動終了後に残っていただきました。まずは、自己紹介、研究テーマ、「スマホを持ってあつぎを歩こう」への参加動機を教えてください。

渡邊 ロボット・メカトロニクス学科4年、健康福祉支援開発センター長で厚木市が市民の健康のため制作した「あゆこちゃん体操」の考案者、高橋勝美研究室の所属です。ウォーキングで人が心地よく感じる運動強度の研究を試みようかなと思っています。昨年、小竹君(後述)と一緒にこのプログラムに参加した時に、人はどんな時にストレスを感じるか、運動を絡めて、心拍数からのストレス管理についてアプローチしてみたいと思ったので参加しました。



坂本 ロボット・メカトロニクス学科4年です。O脚の研究をしようと思っています。自分自身がひざ関節のトラブルの経験があって、高齢者は膝の経年使用による膝関節の悪化の傾向があると聞いたので、自分が年を取った時にどう影響があるのか調べてみるのもいいかなと思い研究テーマにしようと考えています。

います。参加の動機は、おばあちゃんやおじいちゃんと話すのが楽しいと聞いたので参加しました。今まで、全回参加です。

山室 ロボット・メカトロニクス学科の3年です。小竹君と一緒に研究しようと考えています。コロナによって、学生の運動量が変わりました。コロナの前と後でどう変わったか調べてみようと思っています。

小竹 ロボット・メカトロニクス学科3年です。山室君と二人で、スマートウォッチで取れるデータを活用して、睡眠や生活習慣病について考えてみたいと思っています。

小川 どんなことを研究しているか伺ったところで、本題に入る前に、普段の生活の中で、高齢者とお付き合いがあるか教えてください。

小竹 月に1回、祖父母に会いに行っています。母方も父方の祖父母も県内に住んでいるので祖父母の様子うかがいと自分の顔見せに行っています。普段は散歩しているときやごみ捨てに行ったときに、挨拶したり、ちょっと話をしたりしています。楽しく感じています。参加のモチベーションは、地域の活動に参加したいからです。

※2ページへ続きます▶

▶1ページからの続きです。

山室 一人暮らしで、普段の生活の中では高齢者とのお付き合いは、ほとんどありません。年に2回くらい、地元に戻って祖父母に会うくらいです。あと、バイトしているときにおばあちゃんが話しかけてくれることがあります。

小川 普段、めったにおじいちゃん、おばあちゃんとのお付き合いがないと、どんなふうに話しかけたらいいんだろうとか抵抗感はありませんでしたか。

山室 まったく、抵抗感はありませんでした。初対面で、全く知らない方だから話しやすかったかもしれません。今日は、大学の近辺の昔の様子とかを教えてくださいました。

坂本 お盆とかに実家に帰った時、おばあちゃんに会います。最近、コンビニでアルバイトを始めたのですが、毎朝来てくれるおばあちゃんと友達みたいになって、毎朝のちょっとしたやり取りが楽しいです。話のついでに買い物してくれているって感じの方も多かったです。小学生のころから、高齢者に限らず、話しかけられることが多いみたいです。

渡邊 車で1時間ぐらいのところに住んでいる祖父母月に1回、会いに行っています。結構、連絡とかもしています。祖父母の元気な様子を見て安心したいのと、自分の顔を見せて安心してもらえるようにしています。

小川 今日、「スマホを持ってあつぎを歩こう」で参加者（高齢者）と歩きながら、感じたことを教えてください。一緒に歩いてくださいとガイダンスもなくお願いしちゃいましたけれど、戸惑ったりしなかったですか…。

山室 初めて会った高齢者だったから、かえって話しやすかったです。抵抗感なく話せました。いろいろな考えを話していただいて楽しかったです。大学近くの昔の話は、とても面白かったです。

小竹 大学に通っていると、なかなか他の世代の方との交流が持たないので、地域に長く住んでいる方々の話を聴くことが出来て、厚木に興味が湧きました。

渡邊 全体的にいい感じでした。一緒に歩いている高齢者から植物のこととか教えてくださいました。日頃、聞くことが出来ない話を聞くことができて貴重な体験ができました。



小川 一緒に歩いている高齢者の経験からくるお話し、「お茶畑をみて、もう摘んで煎らなきゃダメなのに…」「昔は各家が自分たちで1年分のお茶を収穫・加工していた」とか、「このあたりの地域も陸合中学まで通学していたとか…」など、今と昔を比較する貴重なお話が聞けましたよね。今日の様子と昨年度の「史跡をめぐる」をテーマにしたときとか、災害を意識して地形を見ながらの「スマホを持ってあつぎを歩こう」の時とは、参加者の様子は違いましたか。どうだろう、目的を設定した散策の時との違いはあったのだろうか。

坂本 今日は地元の人が多く、昔のこと、「私は昔、このあたりに住んでいて…」「昔はこんなことをしていたのよ」とか。大学周辺の昔のことなど、参加者が経験して知っていることを話してくださいましたけれど、昨年の本厚木周辺の「史跡をめぐる」をテーマとした時や、防災をテーマにした時には、「知らなかった!」という言葉が多かったと思います。参加されている高齢者の方もご存じなかったもので、厚木に長く住んでいる高齢者にとっても、昔話ではなく、もともと知らなかった新しい発見だったんだなと思いました。自分が経験してきた知識を「若い世代に繋げる」「若い世代と一緒に新しい知識を学ぶ」…同じテーマの取り組みでも、扱い方によって、変わるんだなと思いました。

小川 今日は高嶋先生が散策もリードしてくださったけれど、学生が地域のことを調べて、参加者に紹介するのはどうだろう…。

坂本 知識不足が怖いです。いろいろ調べることはできるけれど、経験に裏打ちされた地元の方の知識には太刀打ちできないと思います。

小川 気付かなければスルーしてしまうような小さな発見、野草を写真に撮るとか、「〇〇がありますね」とか、解説はせずに、毎回、高嶋先生が、参加者に会話を楽しむための、さりげない「しかけ」を作ってくれています。今の感じがいいかも知れませんね。昔のあれこれは高齢者が学生さんに教えてあげたい、スマホの技術は学生さんに教えてもらいたい、そういうことかもしれませんね。

小川 スマホの取り扱いについてはどうでしたか…。気を付けたことはありませんか。

渡邊 口頭で言うと伝わらないけれど、実際に手順を実演すると伝わりました。実際の動作で見てもらうのが効果的です。言葉でアプリとかインストールとか言っても、「アプリって何のこと」と聞かれる場合もありますし、言葉の意味自体が分からないことがあります。その場合、お断りして、ご本人のスマホをお借りして、実際に動作をみってもらうと理解しやすいようです。

小川 今日の狙いの、お散歩をするときに、スマホを活用して、歩いた軌跡を見える化する。より楽しんでウォーキングできるようにするためには、アプリをインストールすることが必要なだけけれど、アプリをインストールすること自体が難しいと感じる高齢者も多いと思うのですが、今日はどんな感触でしたか…。

渡邊 今日、参加の高齢者の方が「自分一人だけでやろうと思うと上手くできないし、あきらめてしまうけれど、誰かが付き添ってしてくれるとやれる気がする」とおっしゃっていたんですけど、確かに、言葉だけ伝えようとしなくて、誰かが付き添って、実際にやっているところを見てもらって、そのあとにサポートしながら、実際にやってもらうとスムーズにできました。最初から、口で説明しながら、自分でやってもらうのは難しいです。

坂本 今までのこの取り組みの経験から、高齢者は口頭で説明しても、実際に自分でやるとなると戸惑ってしまうので、理解をいただいてから、高齢者のスマホで実演してから、ホーム画面に戻してやってもらいました。説明しながら、高齢者がやるのではなく、まずは見本を実演して、ホーム画面に戻り、高齢者にやってもらい、スムーズにできるまで繰り返すことを意識しています。



小川 大学の近くを歩いてみて、いかがでしたか。

渡邊 大学周辺は、あまり歩くことがないので楽しかったです。
坂本 このイベントに参加していなかったら、絶対に歩くことのなかった道を知り、綺麗な花を見たりして、普段デジタールばかりの生活なので、リフレッシュできたと思います。

山室 自分の知らない所があったり、普段行かない所に行けてよかった。厚木って、もっと面白いところがあるのではないかとも思いました。

小竹 普段は大学に行って帰るだけの生活しかしていないので、大学周辺を歩くことは新鮮で、毎回楽しみにしています。

小川 最後に、参加しての感想を聞かせてください。

坂本 今日の後半は、参加者についてきた5歳のお孫さんとずっとお話をしながら歩いていて、小さい子と久しぶりに交流できて懐かしい気持ちになりました。高齢者の方々は私より長く生きて様々な経験をされてきたのが会話から垣間見られ、私自身と比較する良い機会になったと思います。また、参加したいです。

渡邊 次の機会も参加したいです。地域の方々と触れ合える機会がめったにないので、こういうイベントがあるのが、すごく嬉しいです。

山室 今回の参加は3回目でしたが、毎回、知らない知識や異なった着眼点があるので、飽きずに楽しいと感じています。いつもと違った内容の会話が、年の差が離れた会話がいい刺激になりました。4km近く歩きましたが、自分にはちょうど良い距離だなと感じました。初めは、スマホ活用を高齢者は戸惑っておられましたが、スマホの操作を理解してもらえてよかったです。これを覚えてもらえたら嬉しいです。また、機会があれば参加したいです。

小竹 昨年も参加しましたが、同じコースでも参加の方々が違えば歩いているときの視点が変わるので、楽しく参加できました。今回は、道沿いに咲く花や植物などについて話しながら歩きました。郷土博物館では養蚕の展示が行われていたので、昔の養蚕業の様子や実際に使用していた器具の説明をしてもらい、大変興味深かったです。機会があれば、また参加したいです。

フレイルとは

健康と要介護・寝たきりの間を指し、「加齢によって心身が衰え、社会とのつながりが減少した状態」のことです。「Frailty (虚弱)」が語源となっており、2014年に日本老年医学会によって提唱されました。

スマホを持ってあつぎを歩こう



フレイル予防には「身体活動・文化活動・地域活動」を組み合わせると良いことがわかっています。厚木の魅力を学生と一緒に再発見しながら「スマホ活用×ウォーキング」のコツを学びます。2022年度より開始しました。

参加者感想

- 日常、道の左右を観察することが少ないですが、こうしたウォーキングのイベントですと、建物や植木、野菜づくりや草花の風景に関心ももて、気持ちも豊かになります。一緒に歩く方々から学ぶこともあり、楽しい気分になりました。
- 楽しく歩いて身体にも良く、心も身体も健康になりました。次回も参加したいと思います。ありがとうございました。
- 初めて参加しました。とても楽しく歩くことができました。長く厚木に住んでいますが、市内に「こんな場所があるんだ」と驚き、遠出しなくても充分楽しめそうだなと思いました。そして、アプリを使って、いろいろデータを見ることでちょっとカッコよく歩けた!と思えてgood!他にも健康に関する

- アプリのことが知りたくまりました。ありがとうございました!
- 自分一人では、どうしたらいいのか戸惑ってしまうスマホの使い方を学生さんが丁寧に教えてくれたので、アプリをインストールして、楽しむことが出来ました。アプリをインストールしたのは初めてです。これで、お出掛けが何倍も楽しくなりそうです。
- 学生さんとの会話が新鮮で楽しかったです。大学は敷居が高いような気がしていましたが、皆さんがよくしてくださって、綺麗で素敵な場所で、またお邪魔したいです。

